

## 2020年度 所員業績リスト

### ■浅野倫子

#### <書籍>

浅野倫子・横澤一彦 (2020). 共感覚 —統合の多様性— シリーズ統合的認知 6 勁草書房

#### <論文>

Uno, K., Asano, M., & Yokosawa, K. (2021). Consistency of synesthetic association varies with grapheme familiarity: A longitudinal study of grapheme-color synesthesia. *Consciousness and Cognition*, 89, 103090. doi:10.1016/j.concog.2021.103090 (査読あり)

浅野倫子 (2020). 色字共感覚: 色と文字と学習の結びつき. 基礎心理学研究, 39(1), 110-116. doi:10.14947/psychono.39.19(2019年度日本基礎心理学会第2回フォーラム「共感覚と色情報処理」講演論文)(依頼論文, 査読なし)

Uno, K., Asano, M., Kadowaki, H., & Yokosawa, K. (2020). Grapheme-color associations can transfer to novel graphemes when synesthetic colors function as grapheme “discriminating markers”. *Psychonomic Bulletin & Review*, 27, 700-706. doi:10.3758/s13423-020-01732-9 (査読あり)

#### <依頼講演>

浅野倫子 (2020). 色字共感覚: 色刺激入力を伴わない色の経験. 令和2年度 第1回 質感・色覚研究会, 仙台 (2020年12月14日).

#### <学会発表>

張馨月・浅野倫子 (2021). 視聴覚コンテンツの印象の調和・不調和が映像的没入感に与える影響. 第19回注意と認知合宿研究会, オンライン開催 (2021年3月7日). [*Technical Report on Attention and Cognition (2021)*, 4, 1-2.] (査読あり)

Yokosawa, K., Uno, K., & Asano, M. (2020). Factors influencing longitudinal consistency of synesthetic colors for graphemes. 61st Annual Meeting of the Psychonomic Society, 1340 (online meeting, November 19-22, 2020). (査読あり)

Yokosawa, K., Uno, K., & Asano, M. (2020). Longitudinal consistency of synesthetic colors for 300 graphemes. V-VSS 2020 (online meeting, June 19-24, 2020). (査読あり)

櫻井晴子・浅野倫子 (2020). Ordinal Linguistic Personification (OLP) の特性の検討: 中途喪失経験に着目して. 日本基礎心理学会第39回大会 (2020年11月7-17日, 北海道大学 (オンライン開催)). (査読なし)

■江川隆男

<論文> (査読なし)

江川隆男「自由意志なき〈自由への道〉——行動変容から欲望変質へ」、『思想としての〈新型コロナウィルス渦〉』所収、河出書房新社、2020年5月、pp.164-171。

江川隆男「〈批判／臨床〉の平面論——『意味の論理学』と一義性の思考について」、『hyphen』第五号所収、ドゥルーズ・ガタリ・ラボラトリ編、2020年9月、pp.26-35。

<インタビュー>

江川隆男「哲学とは何か——パンデミックと来るべき民衆に向けて」、『HAPAX 13——特集・パンデミック』所収、夜光社、2020年11月、pp.30-71。

■大石幸二

<論文>

大石幸二・浅利真梨奈・和田恵・永川千夏(2020). 児童同士の賞賛が行動変化と学校適応感に及ぼす効果. 臨床発達心理実践研究, 15(1), 77-85. (2020年12月25日発行)  
(査読あり)

遊馬結・金谷裕香・大石幸二(2020). 自閉スペクトラム症児の親に対する支援の効果——ペアレントトレーニングとソーシャルストーリー™の比較——. 人間関係学研究, 25(1), 87-96.  
(2020年12月25日発行) (査読あり)

秋元響・大石幸二・若井広太郎・藤島瑠利子(2020). 自閉スペクトラム症児の心理化の促進——逆模倣による介入の効果——. 人間関係学研究, 25(1), 75-86. (2020年12月25日発行) (査読あり)

大石幸二・中内麻美・竹森亜美・出野由花・山田圭祐・近藤悠海(2020). 知的発達症のある中学校生徒における意見表明の学習と支援——活動計画の相談場面における相互作用の変化——. 人間関係学研究, 25(1), 53-62. (2020年12月25日発行) (査読あり)

坂本真季・須藤邦彦・渡邊孝継・金谷裕香・大石幸二(2020). 自閉スペクトラム症児の他者

感情推測促進に関する応用行動分析的介入—“情動的実行機能(Hot EF)”に着目した社会的情報処理改善プログラムの検討—。発達研究, 34, 71-82. (2020年7月20日発行)(査読なし)

和田恵・大石幸二(2020). 高機能自閉症児における命題的心理化の促進—言語能力の違いがもたらす効果の検討—(中間報告). 発達研究, 34, 197-202. (2020年7月20日発行)(査読なし)

伊東佳寿子・大石幸二・菊池春樹(2020). 自己を保ちながら他者と関わるスキルと自閉症スペクトラム指数との関係—自他境界の観点からの検討—. 東京成徳大学臨床心理学研究, 19(1), 93-106. (2020年5月1日発行)(査読なし)

大石幸二(2020). 多職種連携型地域支援による発達に心配がある子のウェルビーイング向上。発達障害研究, 41(4), 273-274. (2020年2月29日発行)(査読なし)

<著書>(翻訳を含む)

標準公認心理師養成テキスト製作委員会編・大石幸二監修(2020). 標準公認心理師試験対策問題集 2020. 文光堂. 487頁(2020年4月19日刊行)

<学会発表>

出野由花・竹森亜美・大石幸二(2020). 発達障害児の身体調整能力向上のための粗大運動課題の実践—風船バレー活動を通して—. 日本特殊教育学会第58回大会(福岡教育大学; オンライン開催). ポスターP12-44.

竹森亜美・大石幸二(2020). 発達障害児の書字負担感と運動調節能力の関連の検討. 日本特殊教育学会第58回大会(福岡教育大学; オンライン開催). ポスターP9-25.

和田恵・大石幸二(2020). 高機能自閉症児における命題的心理化の促進(2). 日本特殊教育学会第58回大会(福岡教育大学; オンライン開催). ポスターP8-53.

坂本真季・須藤邦彦・渡邊孝継・金谷裕香・大石幸二(2020). 自閉スペクトラム症児の他者感情推測促進に関する応用行動分析的介入—“情動的実行機能(Hot EF)”に着目した社会的情報処理改善プログラムの検討—. 日本特殊教育学会第58回大会(福岡教育大学; オンライン開催). ポスターP8-21.

工藤寛也・大石幸二(2020). 自閉スペクトラム症児へのセルフ・ハグによる不安軽減の効果

—注意バイアスの修正を仲介するモデルの構築に向けた研究の枠組みの整理—  
日本特殊教育学会第 58 回大会 (福岡教育大学;オンライン開催). ポスターP8-18.

金谷裕香・大石幸二 (2020). 「とけあう」体験がもたらす母親の体験認知過程の変容—  
自閉スペクトラム症幼児を育てる母親の気づきに関する事例研究—. 日本特殊教育学  
会第 58 回大会 (福岡教育大学;オンライン開催). ポスターP8-14.

大石幸二 (2020). 自閉スペクトラム症 (ASD) 児のストレスを低減するために—日本語版・  
感覚プロファイル (SP) による評価と限局反復行動 (RRBs) の生起頻度における変化—.  
日本特殊教育学会第 58 回大会 (福岡教育大学;オンライン開催). ポスターP8-11.

下山真衣・原洋平・津瀬圭・田畑隆太郎・大石幸二 (2020). 多様性のある子どもたちの良さを  
生かした集団づくり—知的障害特別支援学校における授業づくりと学級経営—.  
日本特殊教育学会第 58 回大会 (福岡教育大学;オンライン開催). 自主シンポジウム 30.  
【指定討論者】

岡村章司・井澤信三・野田航・米山直樹・大石幸二・野呂文行 (2020). 多様な対象に対して  
行動コンサルテーションをどう進めるのか. 日本 LD 学会第 29 回研究大会 (兵庫教育  
大学;オンライン開催). 大会企画シンポジウム. 【話題提供者】

大石幸二・小関俊祐・大橋智・榎本拓哉・新井雅 (2020). 行動コンサルテーションによる教  
育分野への支援. 公認心理師の会第1回年次総会 (東京大学;オンライン開催).  
教育・特別支援部会シンポジウム. 【指定討論者】

<取材・報道>

発達が気になる子どもの園生活においては、加配の先生がいたほうがいいのか？ (ベネッセ・  
たまひよ On-line: <https://st.benesse.ne.jp/ikuji/content/?id=99408> 2021年3月2日掲載)

■岡島純子

<論文>

Okajima, J., Kato, N., Nakamura, M., Otani, R., Yamamoto, J., & Sakukta, R. (in press). A pilot study  
of combining social skills training and parenting training for children with autism spectrum  
disorders and their parents in japan. *Brain & Development*. (査読あり)

岡島純子・中村美奈子・石川愛海・東美穂・大谷良子・作田亮一(印刷中). 不安症状を持つ自閉スペクトラム症児のための小集団認知行動療法の開発とその効果—パイロット・スタディー— 認知行動療法研究, 47, 47-60. (査読あり)

<書籍>

岡島純子・中村美奈子・加藤典子著, 山本淳一・作田亮一監修(2021). 親子で成長! 気になる子どもの SST 実践ガイド. 金剛出版

岡島義・金井嘉宏編著, 『使う使える臨床心理学』(2020). 岡島純子担当: 第II部未成年の頃までに直面しうること, 「第4章神経発達障害(ADHD, ASD, LD)—個性は天からの授かり物 pp64-82」, 第III部大人になってから直面しうること, 「第8章 大人の神経発達障害(ADHD, ASD, LD)—自分の特徴を知り, 活かす pp143-160」. 弘文堂

日本健康心理学会編集, 『健康心理学事典』(2019). 岡島純子担当: 第11章 健康心理学的支援法・災害後支援, 「発達障害児のソーシャルスキルトレーニング(SST) pp512-513」. 丸善出版

認知行動療法学会編集, 『認知行動療法事典』(2019). 岡島純子担当: 7章教育分野の認知行動療法, 「家族への認知行動療法 pp446-447」, 9章福祉分野の認知行動療法, 「社会的養護 pp490-491」. 丸善出版

岡島純子(2019). 自閉スペクトラム症児の社会的スキルに関する研究. 風間書房

<学会発表>

岡島純子・中村美奈子・石川愛海・東美穂・大谷良子・作田亮一(2019). 自閉スペクトラム症児に対する認知行動療法～ペアレント・トレーニングを含めたプログラムの開発～. 日本認知行動療法学会第45回大会発表論文集. pp.389-390.

<研修会講師>

岡島純子(2020). 小集団のグループプログラム～子どものソーシャルスキル・トレーニングと認知行動療法～ 江戸川区教育研究所(8月24日)

岡島純子(2020). 事例検討会. 大田区教育センター(11月4日)

岡島純子(2021). 子どものソーシャルスキル・トレーニングと認知行動療法. 羽村市教育相談室(2月26日)

■小口孝司

<学術論文> (査読あり)

Kawakubo, A., & Oguchi, T. (2021). Happy Memories: Improved Subjective Happiness through Vacation Recollection. *Tourism Analysis*, 26, 1-8.

宮川えりか・小口孝司 (2020) 海外修学旅行がもたらす心理的効果 —高校生修学旅行者を対象とした縦断的調査から— 日本国際観光学会論文集, 27, 73-81.

<国内学会発表> (査読なし)

宮川 えりか・高橋 修一郎・小口 孝司 (2020). 海外教育旅行が大学生の well-being にもたらす効果 日本心理学会第 84 大会, 東洋大学, 東京

<その他> (査読なし)

小口孝司・星野佳路 (2020) メンタルヘルスツーリズム 星野リゾートの HP 対談記事  
<https://www.hoshinoresorts.com/mag/kounou/vol18.php>

■嘉瀬貴祥

<論文>

Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (2020). The association between sensory processing sensitivity and the big five personality traits in a Japanese sample. *Journal of Individual Differences*, 1, 1-7. (査読あり)

Kase, T., & Endo, S. (2020). Reliability and construct validity of the Leipzig short scale of sense of coherence (SOC-L9) in Japanese sample: The Rasch measurement model and confirmatory factor analysis. *The Japanese Journal of Personality*, 29, 120-122. (査読あり)

Kawagoe, T., & Kase, T. (2020). Task-related thought and metacognitive ability in mind wandering reports: An exploratory study. *Psychological Research*. <https://doi.org/10.1007/s00426-020-01346-9>

Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (in press). Sensory processing sensitivity moderates the relationships

between life skills and depressive tendencies in university students. *Japanese Psychological Research*, 62. (査読あり)

嘉瀬貴祥・上野雄己・島本好平・大石和男(印刷中). 高い Sense of Coherence を持つ者の日常生活における問題への対処にかかわる行動や思考の特徴—計量テキスト分析による質的検討— ストレス科学研究, 31. (査読あり)

嘉瀬貴祥・上野雄己(2019). Sense of Coherence による精神的健康の横断的・縦断的予測可能性の検討—線形回帰モデルと一般化加法モデルによる推定— パーソナリティ研究, 28, 175-178. (査読あり)

Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (2019). The effects of sensory-processing sensitivity and sense of coherence on depressive symptoms in university students. *Health Psychology Open*, 6, 1-5. (査読あり)

Kase, T., Ueno, Y., Shimamoto, K., & Oishi, K. (2019). Causal relationships between sense of coherence and life skills: Examining the short-term longitudinal data of Japanese youths. *Mental Health & Prevention*, 13, 14-20. (査読あり)

嘉瀬貴祥・上野雄己・下司忠大(2019). Dark Triad のライフスキルに対する関連—反社会的な性格特性の適応的, 不適応的側面に関する探索的検討— パーソナリティ研究, 27, 266-269. (査読あり)

Kase, T., Ueno, Y., & Oishi, K. (2018). The overlap of sense of coherence and the Big Five personality traits: A confirmatory study. *Health Psychology Open*, 5, 1-4. (査読あり)

嘉瀬貴祥・上野雄己・梶内大輝・島本好平(2018). パーソナリティ・プロトタイプにおける Resilients, Overcontrollers, Undercontrollers, およびその他のタイプの特徴—ライフスキルの高低に基づいた検討— パーソナリティ研究, 27, 164-167. (査読あり)

木村駿介・嘉瀬貴祥・大石和男(2018). 共食の質尺度の作成および精神的健康との関連 日本家政学会誌, 69, 439-447. (査読あり)

<学会発表>

Yano, K., Kase, T., Oishi, K. (2020). Reinvestigating the relationships between sensory processing sensitivity and life skills among Japanese samples. *Society for Personality and Social Psychology*

*2020 Annual Convention* (2020年2月29日)

雲財啓・磯和壮太郎・嘉瀬貴祥・今井田貴裕・戸ヶ里泰典・福井義一(2019). 健康生成論再考その3—大学生対象の研究から探るSOC研究の発展可能性— 日本健康心理学会第32回大会(2019年9月28日)

川越敏和・嘉瀬貴祥・小野田慶一・山口修平(2019). 「やる気」とマインドワンダリングの関係 日本心理学会第83回大会(2019年9月13日)

磯和壮太郎・今井田貴裕・雲財啓・嘉瀬貴祥・銅直優子(2019). 健康生成論再考その2—健康生成論研究の重要性と心理学的視点の必要性— 日本心理学会第83回大会(2019年9月13日)

Yano, K., Kase, T., & Oishi, K. (2019). Sense of Coherence moderates the relationship between sensory-processing sensitivity and depressive tendency. *The Society for Personality and Social Psychology's Annual Convention 2019*(2019年2月8日)

嘉瀬貴祥・奇二正彦・濁川孝志(2018). 自然体験の多寡を測定する尺度(Survey for Nature Experience 2)の開発 日本トランスパーソナル心理学/精神医学会第19回学術大会(2018年12月24日)

嘉瀬貴祥(2018). パーソナリティ・プロトタイプとその特徴—健康教育場面における性格特性による分類の活用についての検討— 一般社団法人日本学校保健学会第65回学術大会(2018年12月2日)

嘉瀬貴祥(2018). 対人スキルは対人場面における批判的思考の使用判断に関わるか 日本社会心理学会第59回大会(2018年8月28日)

嘉瀬貴祥・上野雄己(2018). パーソナリティとライフキャリア・レジリエンスの関係—パーソナリティ・プロトタイプ観点から— 日本パーソナリティ心理学会第27回大会(2018年8月26日)

Kiji, M., Kase, T., & Nigorikawa, T. (2018). Effects of star watching experiences on the sense of human's spirituality and on other psychological factors. *23th annual congress of the European College of Sport Science*(2018年7月5日)

嘉瀬貴祥・上野雄己・大石和男(2018). 首尾一貫感覚のライフキャリア・レジリエンスに対する関連

の検討 日本健康心理学会第31回大会(2018年6月23日)

■川越敏和

<論文>(査読あり)

Sugimoto, H. Kawagoe, T., Otake-Matsuura, M. (2020). Characteristics of resting-state functional connectivity in older adults after the PICMOR intervention program: a preliminary report. *BMC geriatrics* 20(1) 486.

Kawagoe, T., Onoda, K., Yamaguchi, S. (2020). The association of motivation with mind wandering in trait and state levels. *PLOS ONE* 15(8) e0237461 - e0237461.

Kawagoe, T., Onoda, K., Yamaguchi, S., Radacovic, R. (2020). Developing and validating the Japanese version of Dimensional Apathy Scale (J-DAS). *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 74(7) 411-412.

Kawagoe, T., Kase, T. (2020). Task-related thought and metacognitive ability in mind wandering reports: an exploratory study. *Psychological Research*, <https://doi.org/10.1007/s00426-020-01346-9>

<学会発表>

川越敏和・小野田慶一・山口修平・ラトコラダコビック (2020) 日本語版Dimensional Apathy Scale (J-DAS) の作成と信頼性・妥当性の検証. 日本心理学会第84回大会. Web開催.

■都築誉史

<研究論文>

Tsuzuki, T., Takeda, Y., & Chiba, I. (in press). Influence of divided attention on the attraction effect in multialternative choice. *Judgment and Decision Making*. (査読あり)

<著書>

都築誉史 (印刷中). 認知・思考—機序と障害—(8. 知覚・認知心理学) 岩壁茂他 (編) 臨床心理学スタンダードテキスト 金剛出版

都築誉史 (2020). 判断と意思決定(第 3 章) 日本児童研究所(監修)児童心理学の進歩 2020 年版 (Vol. 59) 金子書房 pp.52-82.(査読あり)

<学会発表>

都築誉史・千葉元気 (2020). 多肢選択意思決定における最終決定に基づいた魅力効果と妥協効果の時系列サッカード分析 日本心理学会第 84 回大会論文集(東洋大学).

■中村秀之

<著書(章分担執筆)・単著>

Hideyuki Nakamura, "Beyond Mt. Fuji and the Lenin Cap: Identity Crisis in Taniguchi Senkichi's *Akasen kichi* (*The Red Light Military Base*, 1953)," translated by Shota T. Ogawa and Bianca Briciu, in Joanne Bernardi and Shota T. Ogawa eds., *Routledge Handbook of Japanese Cinema*. London: Routledge, August 2020, pp. 31-50.

<事典項目・単著>

中村秀之「3D 映画——過去と現在」、美学会編『美学の事典』丸善、2020 年 12 月、444-445 頁。

<その他・単著>

中村秀之「最終講義に代えて「学芸は眉を顰めず」——階級のディスクール・断章」、『立教映像身体学研究』8 号、2021 年 3 月、25-41 頁。

■長門洋平

<著作(分担執筆)>

長門洋平『『君の名は』の歌声——戦後日本の「メディアミックス」と聴覚文化』谷川建司編『映画産業史の転換点——経営・継承・メディア戦略』森話社、2020 年 7 月、217-244 頁

長門洋平「渋谷実の音響空間——音の層、あるいは映画の語り手の声をめぐって」志村三代子・角尾宣信編『渋谷実 巨匠にして異端』水声社、2020 年 10 月、302-324 頁

Nagato Yohei, "The Dawn of the Talkies in Japan: Mizoguchi Kenji's Hometown," translated by Michael Raine. In *The Culture of the Sound Image in Prewar Japan*, edited by Michael Raine and Johan Nordström. Amsterdam: Amsterdam University Press, 2020, pp. 183-199

長門洋平「聴覚文化と視覚文化——映画の音をサウンドスタディーズからみてみると」美学会編『美学の事典』丸善出版、2020年12月、428-429頁

長門洋平「アルバート・アイラーによる映画音楽——『ニューヨーク・アイ・アンド・イヤーズ・コントロール』をめぐって」細田成嗣編『AA 五十年後のアルバート・アイラー』カンパニー社、2021年1月、367-379頁

< 評論 >

長門洋平「ペドロ・コスタの音像」『ユリイカ』2020年10月号、111-120頁

長門洋平「疑問符の聞き方——坂元裕二『カルテット』の音響設計をめぐって」『ユリイカ』2021年2月号、229-239頁

< 書評 >

長門洋平「中村秀之『敗者の身ぶり——ポスト占領期の日本映画』」『立教映像身体学研究』第8号、2021年3月、71-75頁

< インタビュー >

奥村朗、須佐美成、インタビュアー：富田美香、谷川建司、井上雅雄、北浦寛之、長門洋平「映画からテレビまで、現像を支えた東洋現像所」谷川建司編『映画人が語る 日本映画史の舞台裏 [配給興行編]』森話社、2020年10月、87-109頁

中みね子、インタビュアー：谷川建司、小川順子、長門洋平、西村大志「岡本喜八と歩んだ映画人生」谷川建司編『映画人が語る 日本映画史の舞台裏 [撮影現場編]』森話社、2021年1月、287-310頁

■ 日高聡太

< 論文 >

Yaguchi, A., & Hidaka, S. (2020). Autistic communication and imagination sub-traits are related to audiovisual temporal integration in the stream-bounce illusion. *Multisensory Research*

Suzuishi, Y., Hidaka, S., & Kuroki, S. (2020). Visual motion information modulates tactile roughness perception. *Scientific Reports*, 10, 13929.

Hidaka, S., Tucciarelli, R., Azañón, E., & Longo, M. R. (2020). Tactile distance adaptation aftereffects do not transfer to perceptual hand maps. *Acta Psychologica*, 208, 103090.

Hidaka, S., Tamè, L., Zafarana, A., & Longo, M. R. (2020). Anisotropy in tactile time perception. *Cortex*, 128, 124–131.

Yaguchi, A., & Hidaka, S. (2020). Unique relationships between autistic traits and visual, auditory, and tactile sensory thresholds in typically developing adults. *Perception*, 49, 405–421.

<学会発表(国内学会)>

鈴木陽介, 日高聡太. 動的な視覚身体情報は運動主体感を通して触知覚を促進する. 日本基礎心理学会第39回大会 (2020年11月7-17日, 北海道大学 (オンライン開催)).

#### ■坂本真季

<論文>

坂本真季・須藤邦彦・渡邊孝継・大石幸二 (2020). 自閉スペクトラム症児の他者感情推測促進に関する応用行動分析的介入—“情動的実行機能(Hot RF)”に着目した社会的情報処理改善プログラムの検討—. 発達科学:発達科学研究教育センター紀要, 34, 71-82. (2020年6月20日発行)

<学会発表>

坂本真季・須藤邦彦・渡邊孝継・大石幸二 (2020). 自閉スペクトラム症児の他者感情推測促進に関する応用行動分析的介入—“情動的実行機能(Hot RF)”に着目した社会的情報処理改善プログラムの検討—. 日本特殊教育学会第58回大会(福岡教育大学;オンライン開催). ポスターP8-21.

<その他>

令和2年度埼玉県保育士等キャリアアップ研修 講師(障害児保育担当)

■竹森亜美

<論文>

大石幸二・中内麻美・竹森亜美・出野由花・山田圭祐・近藤悠海(2020). 知的発達症のある  
中学校生徒における意見表明の学習と支援—活動計画の相談場面における相互作用  
の変化—. 人間関係学研究, 25(1), 53-62.(2020年12月25日発行)(査読あり)

<学会発表>

竹森亜美・大石幸二(2020). 発達障害児の書字負担感と運動調節能力の関連の検討.  
日本特殊教育学会第58回大会(福岡教育大学;オンライン開催). ポスターP9-25.

出野由花・竹森亜美・大石幸二(2020). 発達障害児の身体調整能力向上のための粗大運動課  
題の実践—風船バレー活動を通して—. 日本特殊教育学会第58回大会(福岡教育大学;  
オンライン開催). ポスターP12-44.

■出野由花

<論文>

大石幸二・中内麻美・竹森亜美・出野由花・山田圭祐・近藤悠海(2020). 知的発達症のある  
中学校生徒における意見表明の学習と支援—活動計画の相談場面における相互作用  
の変化—. 人間関係学研究, 25(1), 53-62.(2020年12月25日発行)(査読あり)

<学会発表>

出野由花・竹森亜美・大石幸二(2020). 発達障害児の身体調整能力向上のための粗大運動課  
題の実践—風船バレー活動を通して—. 日本特殊教育学会第58回大会(福岡教育大学;  
オンライン開催). ポスターP12-44.